

## 平成29年度 第1回 御殿場市子ども・子育て会議 会議録(要約)

- 1 日時 平成29年10月25日(水) 午後1時30分～午後3時05分
- 2 場所 御殿場地域振興センター(林業会館)1階 第1研修室
- 3 出席者 本崎肇委員(会長)、織本玲子委員(副会長)、勝又美仁委員、長田恵理香委員、  
高原ちはる委員、柴田敬紀委員、勝又清子委員、遠藤笑委員、山口高弘委員、  
勝又秀文委員、吉田公美子委員、羽佐田武委員、土屋正紀委員、鈴木由美子委員  
計14人
- 4 欠席者 岩間真人委員 計1人
- 5 事務局 計12人

### 6 会議の内容

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付(4人)
- (3) あいさつ
- (4) 報告事項

**議題** 御殿場市子ども・子育て支援事業計画の実施状況報告について

<議題に対する質疑応答>

委員：子育て支援短期事業(ショートステイ事業)について「平成29年度以降の方向性等」によると先進自治体の例を研究するとあるが、実際に実施している自治体は具体的にあるのか。

事務局：全てを把握しているわけではないが、近隣自治体では三島市などが実施している。これまでも勉強会等に訪れたりして事例研究をしているので、今後も引き続き研究を継続していきたい。

委員：乳児家庭全戸訪問事業について、供給不足が発生している理由は、「その他」欄の記載理由のみが原因だからか。

事務局：本来であれば全戸訪問の実施が理想だが、事業の対象範囲が生後4か月までとされているため、4か月を超えてからの訪問が対象外となってしまうことに加えて、「その他」欄に記載の理由から供給不足が発生しているところである。

委員：教育・保育(2号認定)の評価の中で、特定の施設のみを希望する場合に入所できない事があったとあるが、どのような状況なのか教えて頂きたい。

事務局：施設によっては人気が高く希望が集中してしまうことがあり、その場合にご希望に添えない場合がどうしても発生してしまっている。

ただし、全体として2号認定のニーズは充足しているため、今後は、可能な限り保護者のニーズに添えるように施設の適正な配置に努めていきたいと考えている。

委員：資料によると公立幼稚園(1号認定)の需給状況に余裕がある状況となっているが、平成30年度の原里西幼稚園の応募状況が1ヶタであると聞いている。

神山幼稚園においては年少が1ヶタとなり、今年の6月に来年度の募集をしないことが決まったと聞いている。いずれ原里西幼稚園もそうなるのか懸念がある。働きたい母親が増えている中で、公立幼稚園はいずれなくなっていくのかと母親の間で話題になって

いる。

こども園の人気があると噂なので、今後の計画の中で、公立幼稚園はこども園になっていくのか。

会 長：ご質問の内容は、以降の議題の中で説明があると思うので、その中で回答いただければと思うがいかが。

委 員：承知した。

#### (5) 協議事項

**議題** 御殿場市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

<議題に対する質疑応答>

委 員：3号認定（1・2歳）について、御殿場地区と玉穂地区に不足が出ている状況となっている対応として、保育士等の確保により対応するという事だったと思うが、施設の面積としては大丈夫なのか。

事務局：全体の計画としては、最終的に供給が上回る計画となっているが、地区別の状況を確認すると、地区によっては不足が生じてしまっている地区もある。

保育所は学区がないので、例えば、自宅近くの施設を利用するのではなく、通勤経路上に供給に余裕のある他地区の保育所があれば利用していただく等の対応を考えているところである。

会 長：保育所の特性として、働き場所（すぐに迎えに行ける場所）という観点のウェイトが大きい。もう一つは、広域調整とか様々な問題があるがそういった説明をすると納得いただけるのではないか。

事務局：市民が市外の保育所を利用したり、逆に市外住民が市内の保育所を利用したりすることがある。そういった利用方法があるということを踏まえて、一番都合のいい場所でご利用いただくのがベストであるが、需要の高い地区では中々難しい状況となっている。

事務局：補足となるが、事業計画については、ニーズ調査の結果により計画を作っている。御殿場市では6地区に分けて分析を行っているところだが、こと保育所に限れば、6地区に限らず地区をまたいで利用しているという実態がある。

当初計画においても、地区をまたいでの利用は計画の中で反映しきれない部分があるので、今回の中間見直しの中でも御殿場地区や玉穂地区などは需要に対して不足する部分がある。また、他地区では逆に需要に対して供給に余裕がある地区がある。実際の保育所の利用は地区をまたいでの利用があるという事を勘案して、市全体の中で充足しているという観点からご確認いただければと思う。

会 長：それでは、その他にご意見ご質問がなければ、異議なしということで会議の意見としてまとめさせていただくがいかがか。

委 員：異議なし。

**議題** 平成30年度の特定教育・保育施設等における利用定員変更について

<議題に対する質疑応答>

会 長：幼稚園に係る質問について触れられていなかったように思うので、回答いただきたい。

事務局：今回ご審議いただいている中間見直しは、平成31年度までの計画内容の見直しとなる。神山幼稚園については、平成31年度をもって閉園となるため、今回の見直しには影響しないものとなる。

現時点では、神山幼稚園のことが動き出したところだが、今後の話としては、保護者の意見や国の動き、民間施設の動き等を見させていただいたうえで判断していくことになるので、現状では原里西幼稚園がどうなるかとの回答は差し控えさせていただきたい。

会 長：今回の利用定員の協議の中では、特に委員の疑義は関係してこないということか。

事務局：あくまで来年度の利用定員の変更内容についてご意見をいただければと思う。

会 長：それでは、その他に御意見や意義等あるか。

委 員：異議なし。

会 長：異議なしということで会議の意見としてまとめさせていただく。

#### (6) その他

委 員：公的な保育所等の施設の老朽化について、具体的に何年以上の築年数があれば建てなおすのかといった問題があるが、今後、建てなおすのか民間活力を活用するのかといった話は進んでいるのか。

事務局：公立施設の今後の方向性については、平成27年度に「御殿場市幼児の教育・保育施設整備基本構想」を策定している。その中で各施設の耐用年数をふまえて、今後改修や整備等の計画をしていくという事で方向性が出ている。ただし、あくまで基本構想なので、園児の状況や施設の老朽化の度合いに応じて、その都度見直しや検討をしたいと考えている。また、現在、施設整備の庁内検討委員会を立ち上げて具体的な整備内容について検討しているが、神山幼稚園についてもその中で検討されてきたものである。今後も順次検討を進めていきたいと考えている。

委 員：6月に神山幼稚園が閉園になると説明があったときに、幼稚園の保護者は最初説明がなかったといったそうである。先ほどの話だと、園児の保護者に説明して結果閉園とおっしゃったが、そのあたりの食い違いはどうか。

事務局：先ほどの説明で、保護者を交えて相談ととられたのであれば、それは、関係者が60人を超える方々がいるなかで、それぞれに説明させていただいたなかでご意見を頂いたという事である。保護者の気持ちに寄り添う形を一番に考えて進めさせていただいたのでご理解いただければと思う。

委 員：了解した。

事務局：今年度に予定していた事案は今回で終了となるため、特段の事案が出てこなければ、今年度の会議は今回をもって終了となる。ただし、今後、急な事案等があった場合には、会議を開催することがあり得ることを御承知おきいただきたい。

また、委員の任期については、今年度で満了となるので、今年度の会議がなければ、今回が最後となるのでご了解いただきたい。

#### (7) 閉 会